

今月は、第8回監事会を開催したほか、ケアセンター金沢の業務監査を実施しました。

## 理事の活動



玄田 博司 理事

お気に入りのコープ商品

CO-OP ミックスキャロット



生協入協直後、先輩から勧められ、人参嫌いを克服したカルチャーショックの一品。3人の子どももこれで成長しました。

今回は第19回通常総代会で新しく役員となった玄田理事の自己紹介です。

1984年に石川生協（コープいしかわの前身）に入協し、途中七尾生協（同じくコープいしかわの前身）の地域担当を経て、石川生協に帰任。共同購入（現在は宅配）、情報システム、合併推進事務局、店舗と多くの部署を経験し2016年からコープ北陸事業連合で業務をさせて頂いています。

### コープいしかわに期待することは？

組合員が暮らしやすい地域づくりと願い実現のお手伝いを愚直に進めておられるコープいしかわを支持しています。今後も組合員に寄り添いながら着実に成長される事を期待します。

### 大切にしている思いは何ですか？

これまでの生協職務には常に組合員ファーストで行動してきました。これからは内向き志向に陥らず、組合員最優先で判断・行動していきたいと思えます。

### 今後の抱負をお願いします

組合員から頂いた意見の実現に向け、焦らず慌てず着実に進めて参ります。新米理事1年生です。皆様のご指導ご鞭撻、宜しくお願ひします。

## 理事長コラム

### 『規格外の小松産トマトを活用して、みんなで新商品開発』

総代の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。今年も事業や活動を通じて運営に参加頂き、心から感謝申し上げる次第です。また、新任の総代の皆様にはお忙しい中、新任総代セミナーにご出席いただき、ありがとうございました。

コープいしかわは宅配商品カタログ「じわもーる」や「のとも〜るスマイルプロジェクト」を通じて地元の生産者やお取引先と協力し、地場の商品の企画や開発をすすめています。この取り組みは、2008年に「餃子事件」が起き多くの組合員から「地元の顔みえる商品を企画してほしい」という声にこたえて始まりました。小松市は北陸で最大のトマトの産地となっていて、最近ではJA小松市さんとコーミ株式会社さんと協力し、小松産トマト100%のケチャップの企画を開始しました。更に来年度に向けてJA小松市さんからジュースとして企画ができないかとご相談があり、コープいしかわの宅配事業委員会でJA小松市さんと共同で商品を開発することとなりました。このジュースには小松産トマトの代表的な品種である桃太郎トマトの規格外品を原料に使用します。規格外品は傷や色付き不十分などの理由で市場には出荷することができず、利用方法を思案されている状況でした。

商品開発は味や量目などの商品仕様に始まり、ガラス瓶の形状や商品ラベルのデザイン選定に携わっていただき、初回製造の立会いも行いました。県内にジュースを製造できるメーカーが無く、長野県の「なかひら農場」さんまで出かけました。なかひらさんは、コープブランドの商品も製造されていて、組合員に自信を持ってオススメできる商品になったと思います。製造立ち合いでは参加した皆さんと出来上がったトマトジュースを前に感無量でした。

地元の生産者を守ることが地域の活性化につながり、安心して暮らしていける地域づくりにつながっていきます。コープいしかわも組合員と地域の皆さんと協力しその一翼を担っていきたく思います。年末年始は雪の予報も出されていますが、総代の皆様、健やかに良い歳を迎えられることを、心からお祈り申し上げます。



理事長 大谷 学

